

◆経済倶楽部講演会第4325回（3月27日）

ワード・ポリテイクス／ コラムニストが考える、これからの日本

毎日新聞社特別編集委員 山田孝男
やま だ たか お

- * 新型コロナ後の世界は一変
- * 大平研究会の先見性
- * ワード・ポリテイクスの時代へ
- * 言語能力乏しい安倍首相
- * 外交舞台での座談は得意
- * ワード・ポリテイクスの三つの成功例
- * ゴーン問題で露呈した発信力
- * ワード・ポリテイクスを身につけよう
- * 鍛えられた言葉が残る
- * 滑稽な英語力重視



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は毎日新聞の山田孝男さんにおいていただきます。山田さんはこの会への登場は2回目でございます。1952年のお生まれで、早稲田大学卒業後、毎日新聞に入社され、長崎支局、本社社会部を経て政治部へ移られ、政治部長を経験された後、現在、特別編集委員をされておられます。

本日は新型コロナウィルスの問題がたいへん騒がしい中でございます。社会、政治に大きな変化がこれからこの問題を通じて生まれてくるのではないかとというような感じがいたしております。そういうことで、通常であれば安倍政権の状況、今後についてお話しただくつもりでしたが、もう少し広げてこの問題が今

後の世界をどう変えていくかということろまで含めてお話をいただければと思います。それはよろしくお願いいたします。

新型コロナ後の世界は一変

山田 ただいまご紹介にあずかりました毎日新聞の山田孝男と申します。私は毎日新聞に毎週、政治コラムを書いております。今年で45年、新聞記者をやっております。最初の10年は地方機関と社会部で、地方機関は長崎と小倉にありました。あとの35年の大半は東京の政治部であります。

さて、日本の新聞は、論調が右か左かで分類いたしますと、朝日、毎日が左で、読売、産経が右だと世間は言っております。では日経はど